

室は、紹介予約、受診望日などを考慮し、予約相談、医療福祉相談の3日を決定。患者が直接紹介状を外来に持参した場合に比べて、待ち時間短縮につながっている。

送られてきたファックスは、その日のうちに外来や、医局に設置している各医師のメールボックスへの配付や電子カルテの取り込みを行っている。早い段階から医師がファックスで診療情報を受

紹介元医療機関から紹介予約担当が扱った予約件数は、2012年度の6668件から、17年度には1万1059件へ

こうした活動の結果、紹介予約担当が扱った予約件数は、2012年度の6668件から、17年度には1万1059件へ

患者が院内を回る負担がなくなった。現在、同病院で行っている全身麻酔手術の7割に対応している。

患者が院内を回る負担がなくなった。現在、同病院で行っている全身麻酔手術の7割に対応している。



病院入り口側に患者サポートセンターを設置している

# 慢性腱炎の痛み軽減

## 新札幌 整形外科 P R P で好成績

厚別区の新札幌整形外科病院（吉本尚理事長・88床）はアキレス腱炎や上腕骨外上顆炎（テニス肘）、膝蓋腱炎（ジャンパー膝）、内側副靭帯損傷（野球肘）などの慢性な腱炎や靭帯損傷のネットワーク作りにじ、これまでの経験を

自己多血小板血漿（PRP）療法Ⅱ写真Ⅱを用いて、痛みの軽減につなげている。

痛み止めなどの投薬やリハビリで改善しない難治例に対し、2015年12月から導入。これまでの

適応症例に治療し、痛みの程度が「10」から「5」以下に軽減した患者が約8割に達しており、副作用の報告はないという。

PRP療法は、血小板を濃縮してから損傷した組織に注射し、回復を促す治療法。患者自身の血液から精製するた

め、拒否反応や肝炎などのウィルス感染のおそれがない。

治療を行う後藤佳子医師は、「手術と異なり侵襲が少なく、1回の外来で済むため、治療の選択肢の一つとして提案している」と話す。

患者は治療2〜3週間



院長就任は昨年9月。同病院は開院当初から地域密着を掲げ、管理業務にとどまらず、地域連携推進に向けて自らアクティブに活動。母体の法人は札幌と十勝管内で4病院と複数の介護施設を運営。「ネットワークを生かし、広域で柔軟な診療体制作りを目指したい」。

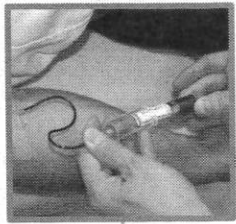
スタッフ教育にも熱心で、コメディカル向けに発行した心電図テキストは韓国や台湾でも翻訳出版

## 推進に注力

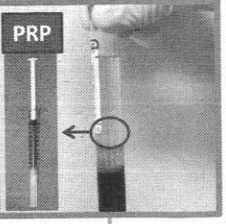
初期診療から長期療養まで受け入れ、訪問診療も積極的に展開。私

▼住所 札幌市厚別区厚別東4条2丁目1

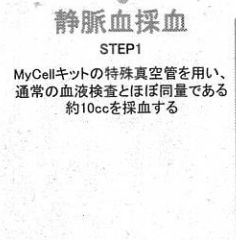
30



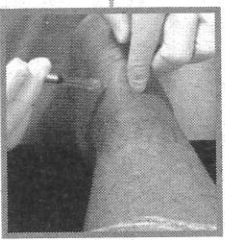
遠心分離 STEP2  
血漿を分離するための遠心分離を7分行う(2000G)



局所注射 STEP4  
消毒した患部にPRPを数か所に分け注射する



PRPの分離 STEP3  
分離ゲルの上層に分離された黄色い血漿中から約1-1.5ccのPRPを分離し注射用シリンジに採取する



静脈血採血 STEP1  
MyCellキットの特殊真空管を用い、通常の血液検査とほぼ同量である約10ccを採血する

10年4月に現在地に新築移転したが、股関節、膝関節といった下肢に加え、脊椎や肘などにも対応範囲を広げ、ほぼ全ての整形外科分野をカバーし、手術件数が大幅に増加したため、手術室やスタッフルームなどが手狭になったという。

東区の我友会さっぽろ病院（木村正一理事長・春藤基之院長・50床）は、JR北海道が同区で建設を進めている新苗穂駅北側の研修センター跡地（北5条東11丁目）への移転を計画している。2018年度内に着工し、20年7月のオープンを目指す。

帯広市で帯広光南病院（鹿野泰邦院長・100床）などを運営する、社会福祉法人真宗協会（桶渡喜久雄理事長）は、創立70周年記念式典・祝賀会を、7月1日に北海道ホテル（帯広市）で開催する。

新病院は4〜5階建てで、標榜科目は変更なし。手術室を現行よりも拡大し、ナビゲーションシステムなど最新機器を導入

創立70周年迎え  
7月1日に式典  
真宗協会

道立病院  
17年度31件減  
道がまとめた「道立病

## JR新苗穂駅北側に

### 20年7月オープン